

名古屋言語研究会 開催実績

第 190 回例会及び総会

日時：2022 年 4 月 23 日（土）午後 2 時 ※Microsoft Teams ビデオ会議にて開催

発表者ならびに題目：

毛 星文 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

現代語における「分析」とは何か

山口 響史 氏（大阪大谷大学）

近世後期における受益構文の非恩恵用法

第 191 回例会

日時：2022 年 6 月 25 日（土）午後 2 時 ※Microsoft Teams ビデオ会議にて開催

発表者ならびに題目：

陳 泳姍 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

限定を表す取り立て詞「ばかり」の意味・機能と構文の特徴

瀧 豊丹 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

連用形が名詞化できる語彙的複合動詞の特徴に関する一考察

—「複合動詞レキシコン」における「VV 型」意志的自動詞を中心に—

第 192 回例会

日時：2022 年 9 月 24 日（土）午後 2 時 ※Microsoft Teams ビデオ会議にて開催

発表者ならびに題目：

鈴木 基伸 氏（大手前大学）、梅野 由香里 氏（大阪大学非常勤講師）

富山方言における「ゆすり音調」について

許 燕 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

学習者の誤用に見る副詞「実は」の一考察—I-JAS・CSJ・NUCC を用いて—

第 193 回例会

日時：2022 年 11 月 26 日（土）午後 2 時 ※Microsoft Teams ビデオ会議にて開催

発表者ならびに題目：

劉 卓婷 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

状況名詞の機能動詞構文とコピュラ文の比較研究—「様子ガアル」と「様子ダ」を例として—

金 銀珠 氏（名古屋工業大学）

無助詞「の」「が」の歴史的展開—平安～現代までの構造変化に注目して—

第 194 回例会

日時：2023 年 1 月 28 日（土）午後 2 時 ※対面と Microsoft Teams ビデオ会議のハイブリッド形式にて開催

場所：名古屋大学文学部 127 講義室

発表者ならびに題目：

蔡 玉婷 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

心理動詞のテンス・アスペクトについて—アクチュアルな事態を中心に—

川村 祐斗 氏（名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程）

後続表現から見たサラバの歴史—サラバとの対照—